



HPS Japan
Hospital Play Specialist

News Letter

ニュースレター

<http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



インタビュー

この人に聞く

National Association of Hospital Play Staff
(NAHPS) 会長

Norma Jun Tai 氏

Q 所属するキングストン病院での HPS の活動は？

キングストン病院は、人口 32 万人をカバーするロンドン市郊外南西部サリー自治区の総合病院です。私の所属する小児科は年間 5,000 人の子どもたちにサービスを提供しており、私は HPS のプレイコーディネーターをしています。実務経験や研修・研究活動などにより、HPS には Basic、Senior 2、Senior 1、Play Coordinator の 4 段階があり、病院の HPS 活動全般に責任を任されている一番上のレベルがプレイコーディネーターです。1982 年から英国保健省が入院する子ども 10 人に 1 人の HPS を置くよう勧告していますが、キングストン病院には現在私を含めて 8 人の認定 HPS がプレイチームを構成し、その基準を満たしています。

病院のプレイルームは平日は午前と午後、土曜日午前中は利用できます。子どもといっても新生児から 16 歳までの思春期の児童を対象にしていますので、幅広いゲームやおもちゃを揃え、多様な活動を展開しています。ティーンエイジャーの子どもたちのためにビリヤード台やコンピューターもあるので。また HPS は、子どもたちの気分転換などのために屋外で活動することもあります。



Q 英国ホスピタル・プレイ・スタッフ協会 (NAHPS) の会長もなさっていますね

NAHPS は 1975 年に設立されましたが、今では HPS を含め病院などで子どもたちと関わるすべての専門職者で構成されています。その目的は、医療ケアを受けている子どもたちに身体的・精神的な安定や安心を促進するため、それに携わる専門職の資質・技術の向上や病院内の適切な遊びの環境の改善について積極的に取り組んでいる非営利の慈善団体です。会長といっても PHS から給料をもらっているわけではありません (笑)。

Q 英国での HPS 養成教育について教えてください

英国では現在、5 つの大学 (College) に HPS 養成コースが設置されていますが、今後は総合大学 (University) にも養成コースが設置される予定です。英国で HPS 養成コースを受けるには、20 歳以上で、健康な子どもと職業等を通して接したことが 3 年以上ある必要があります。ただ、養成機関の数も限られていますし、経験が豊富だけで教育が受けられる保証はなく、意欲や目的意識など面接によって最終的に判断します。

養成コースは 1 年間で、講義や演習など週に 1 日行われます。病棟保育士などの経験のない受講生には最低 200 時間の実習が課せられます。専門職として必要な研究・調査のスキルを身につけるため、授業や実習の各種レポート、



病児のニーズに即したおもちゃプロジェクト、個別にテーマ設定した研究プロジェクトを完成させます。働きながら学んでいる者も多く、1年で修了するのが難しいかもしれませんが、海外からでも条件を満たせば可能ですが、授業や実習でコミュニケーションが取れる英会話力が必要です。

Q 本学の HPSJ 養成プロジェクトについて

第1クールもそうでしたが、第2クールの受講生も非常に目的意識が高く、熱心に学んでいる姿勢が見られます。単に講義を聞き、知識を増やすという受動的な姿勢ではなく、体験に基づいた疑問や意見などを積極的に表現し、少しでも多く学びたい、新しい技術を身につけたいという気持ちが伝わり、教えていても非常に有意義な時間を過ごしています。そして、運営スタッフのサポートがしっかりしていて、とてもよい講座が実施できていることを実感しています。

英国と日本の医療システムや社会・文化の違いがありますので、英国の養成教育をそのまま持ち込むのではなく、日本の現状や課題に即した講義内容を組み立てている点が最も評価できます。しかし、忘れてならないのは、病院といった特殊な環境ではあっても、子どもや家族を中心に置き、「Play」こそ子どもの生活や発達に不可欠なことである原点は国や文化が違って同じということです。英国でも遊びを医療ケアに導入したり、HPSがコメディカルスタッフの専門職として認識されるまでには多くの時間と労力を要しました。日本の病気の子どもたちに対し、その「幸せ (Well-being)」の追求を組織的に行うこのプロジェクトは日本の小児医療に足跡を残すことになるはずで、その養成教育に関わることができとても光栄なことで、私にとっても来日は非常に楽しみなことでもあります。



Q HPSJ プロジェクトに期待することは？

ぜひHPSの役割や意義、そしてその必要性が理解できるよう積極的に活動を展開してください。今回、静岡県立こども病院と静岡県立総合病院で医療スタッフにHPSのレクチャーをしました。参加された医師や看護師など、はじめて病院での遊びの意義や医療ケアへの効果が理解できたという声が聞けました。HPSの認知度を高めるためのキーパーソンを考えることです。第1クールの修了生がHPSの視点で子どもと直接関わっていくこと、その毎日の実践活動の価値はとて大きいでしょう。第2、第3クールと続く養成講座の修了生に、知識や技術を磨く継続的なトレーニングの機会を与えることも大切です。

また、医療システムに変革をもたらすためにも、多くの人々のパワーが必要です。短期間でも子どもが入院した経験がある親であれば、病院での遊びやHPSの必要性はすぐに実感できます。病気が重かったり、障害があったりする子どもの両親は遊びの専門職の出現を待ち望んでいるのです。医療者だけをターゲットにするのではなく、広く市民にHPSの活動が理解される活動や、実際に病気の子どもの抱える家族をエンパワーするための取り組みを積極的・組織的に展開して欲しいと思いますし、その責務があり、できるものと確信しています。そのドアはこのプロジェクトによって開けられたのですから、信念と情熱を持って取り組んでください。



活動報告：第1期養成講座修了生のHPS在宅支援活動

HPS・保育士 中山陽子



三匹の子ぶたの指人形。
これでお話をするよ。

ご両親とお話し合い



たくさんのシャボン玉。
きれいだね。



初めての砂遊び。
うわっ、おもしろい！

はじめまして。私はHPSの中山陽子です。私が現在取り組んでいる、遊びを使った在宅療養支援について少し説明をさせていただきます。

私が遊びの支援をおこなっているのは、脊髄性筋萎縮症(SMA)Ⅰ型という病気を持つ、とてもかわいい女の子、きょうちゃん(3歳)です。SMAという病気は、脊髄の運動神経細胞の変性により筋肉の衰えや筋の委縮が四肢から体幹に広がり、運動機能障害が進行し歩行困難となる病気です。Ⅰ型は、嚥下障害や呼吸困難があるため人工呼吸器をつける必要があります。でも、きょうちゃんは3歳の子どもらしく、好きと嫌いがはっきりしてきて、お笑い大好きな女の子です。とてもきれいなお母さんと、ちょっとスバルタだけどこかっていいお父さんの愛情を一身に受けて育ったきょうちゃんは、妹ができたので少し背伸びしてお姉さんの意識も芽生えつつあります。

きょうちゃんは現在、看護師、ヘルパー、OT、HPSの支援を受け生活をしています。私はHPSとして2か月に1度程度(1回あたり3時間程)遊びの計画を持って訪問活動を実施しています。遊びの計画を立てるとき注意していることは、きょうちゃんの状態だけでなく、発達に合わせることです。その上で年間の目標を決め、2か月ごとのテーマと具体的な遊びを策定しています。きょうちゃんを訪問する際には、その中からいくつかの遊びを紹介し、きょうちゃんと一緒に遊びます。一番楽しいときです。2か月ごとの訪問のため、ご両親やヘルパーさんに日常的に少しの時間でも、計画の中から遊びを選んで実施してもらっています。また一方的に遊びを決めるのではなく、きょうちゃんに選択肢を与える方法を実践してもらっています。

まだ3回の訪問ですが、ご両親の考えが少し変わってきたように感じています。ご両親はきょうちゃんをとっても大切に育てており、外出も動物園、水族館、公園へと積極的に連れて行っています。しかし、室内の遊びに関しては、テレビやDVDを見せたり、本を読み聞かせたりと限られたものでした。私達が訪問し、遊びを紹介すると「こんなにたくさん遊べるものがあるんですか、考えてもみませんでした」と驚いていました。そうなんです。寝ていても、人工呼吸器をつけていても、いくらだって遊べるのです。「そうだよ、カゴメカゴメ楽しかったね、きょうちゃん！」砂遊びをしている時に、モニターの心拍数の数値がかなり下がっていたので、ご両親は「砂遊びは落ち着くんですね」と遊びの持つ力に感心していました。またきょうちゃんが意思表示し易いように介護者が統一した聞き方をするように提案しました。現在はまだ練習中ですが、ご両親はしっかり実行し、コミュニケーションの取り方も上手になっています。私は、日頃より、どんな障害を持っている子ども達にも、子どもが出来るだけ能動的に遊べるように考え、子どもが遊びたいと思う遊びは、発想を変え、工夫し、子どもに提供出来るようにする事がHPSとしての役割と考えています。きょうちゃんにも遊びを通してもっともっと3歳児としての楽しい経験をしてほしいと思っています。

今後は看護師、ヘルパー、OT、ボランティアの方とも連携をとりながら、きょうちゃんをご両親を中心とした活動を展開していきたいと思っています。なにより、遊びを求めている子どもや家族にHPSの専門性を発揮できる喜びを感じています。今後もこのような在宅療養する子どもさんへの支援を続けていきます。応援よろしくお祈りします。

目がキョロキョロ。
きょうちゃんもできるかな？



次は何して遊びたい？

か〜ごめ♪かごめ〜♪
目を隠して顔を触って、
だ〜れだ？



ここから歌が流れるよ。
一緒に歌おう！



第2クール受講風景

NAHPS会長 ノーマ・ジョン・タイ先生



Stevenson College
フランス・バーバラ先生



ノーマ先生と受講生のみなさん



熊本大学 教育学部
藤中隆久先生



静岡市障害者歯科保健センター
服部清先生



名古屋大学
奈良間美保先生



第1期生修了生
小長谷秀子さん・中山陽子さん



静岡県立大学短期大学部 学長
西垣克先生



ウソン大学教授
岡田節子先生



その他多くの先生方から授業を受けました。



インフォメーション

- 第39回聖隷浜松病院病院学会で第1期養成講座修了生の小島広江さんが優秀賞を受賞されました! おめでとうございます。

題目「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト/ジャパン養成講座を受けて」

- 実習指導にあたっているHPS5名が、2008年11月に英国の小児医療機関 (Great Ormond Street Hospital for children、Kingston Hospital、Royal Hospital for Sick Children) で実習を行います!!

その成果は、実習報告会を予定していますので、その日時をホームページでお知らせします。

- 第3回 HPS 養成講座の受付を始めます。奮ってご応募ください。

受付期間：2008年11月10日～12月1日

★養成講座

- 第3クール 2009年2月16日～3月16日 日祝日は休み
本プロジェクトは3年間で5クール行います。今回は第3クールの募集です。
- 定員：1クール定員10名で1クラス
- 申込用紙は本学ホームページ (<http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp>) からダウンロードできます。

★応募資格

- 保育士または看護師の資格を有する者。
- 保育または医療現場等で実務経験があること。
- 現在、離職中であること。
(現職の方に関しても、受講が許可できる場合もありますので、個別にご相談ください。)
- 実習を含め、全日程を受講できること。

★本講座(1クール)の修了者に学校教育法に基づき、「HPS Japan」修了証明書を交付いたします。



HPS Japan
Hospital Play Specialist

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿 2-2-1

静岡県立大学短期大学部 HPS Japan 養成教育事業事務局

tel: 054(202)2652 mail: hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp

担当: 松平千佳、江原勝幸、中村仁美

文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業